



DX戦略

2025年07月23日取締役会承認

株式会社福井
代表取締役 福井基成

- 01 社是・基本方針
- 02 経営ビジョン
- 03 DX戦略
- 04 推進体制
- 05 DX人材の確保・育成
- 06 デジタル環境整備
- 07 成果指標・KPI
- 08 ステークホルダーの皆様へ

● 社是

共に喜ぶ



当社では事業を通じて、全てのステークホルダーと「共に喜びを分かち合う」ことを社是としています。

創業から110余年、当社競争力の源泉はいつも社員のがんばりです。DXについても社員の総力を結集して推進していきます。

そしてそこから生まれる恩恵は、社員をはじめ全てのステークホルダーと分かち合っていきます。

● 基本方針

1. 社員

社員は会社最大の資産であり、企業永続の原動力。会社は業績と共に社員の成長責任を担う。

2. 家族

社員の最大の資産は家族であり、会社は家族の豊かな生活に貢献する。

3. 顧客

顧客の声は全ての原点になる。製品やサービスの販売を通じて、有形・無形の価値提供を。

4. 得意先・仕入れ先

共に当社の永続的パートナーである。相互の利害の間に立ちつつ三者の利益を同時に追求する。

5. 社会・近隣地域

地域に根差した良き企業市民として、100年後も認められる企業であり続ける。

社是である「**共に喜ぶ**」の実現を経営の根幹として、当社のステークホルダーである得意先・仕入先・社員・社会・近隣地域の皆様と喜びを分かち合い、持続的な価値を創出していきます。

○得意先のために

取扱商品の拡充および商品情報の充実によって、**より選びやすく魅力ある商品提案**を実現します。加えて、入出荷キャパシティと需要予測の精度向上により、**必要な商品をより早く・より正確にお届け**できる体制を構築します。

○仕入先のために

仕入先とのデータ連携システムを構築し、**双方のコミュニケーションコストの削減と業務効率化**を図ります。さらに当社の在庫・出荷データを共有することで、仕入先における**生産計画・在庫計画の精度向上に寄与**します。

○社員のために

グループウェアを活用した情報共有と部門間連携の強化、ワークエンゲージメントサーベイの定期実施による意識・従業員満足度の可視化によって、**継続的な職場環境の改善**に取り組みます。あわせて、バックオフィス業務の自動化による業務負担軽減や、IT研修・ジョブローテーションをはじめとしたスキルアップ支援を通じて、**生産性や働きがいの向上**を目指します。

○社会・地域のために

地域社会との共生を大切にし、持続可能な事業活動を通じて**社会的課題の解決に貢献**します。地域のイベントや教育活動にも積極的に協力し、地域から信頼され、必要とされる企業であり続けます。

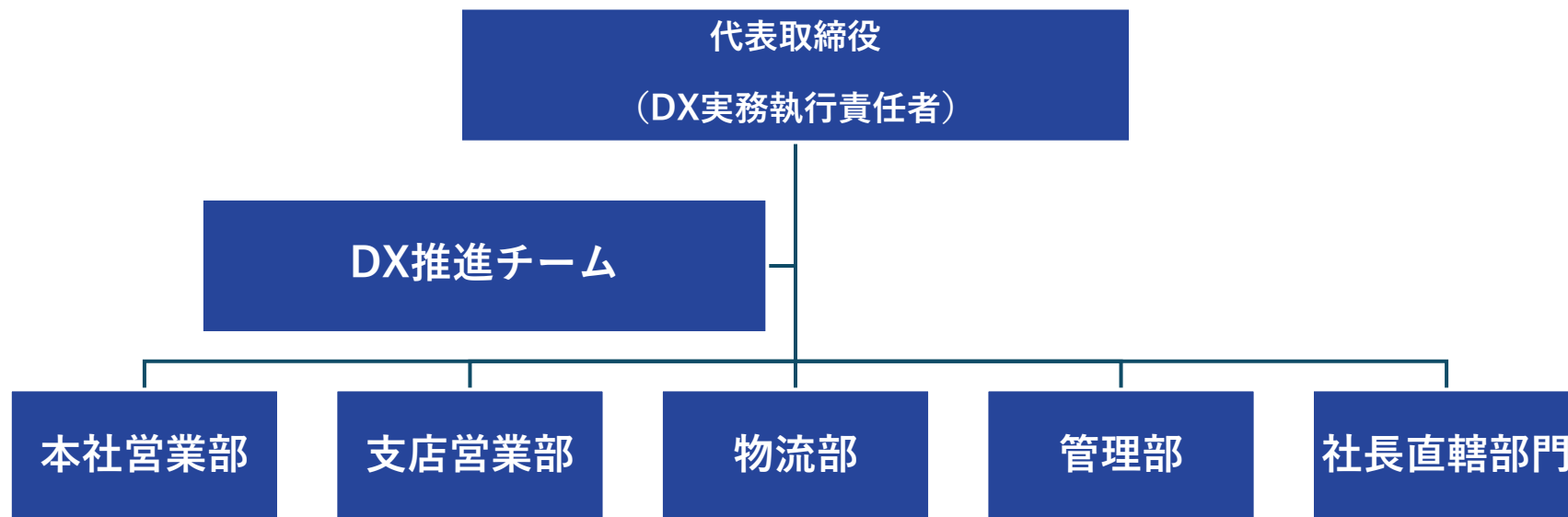
03. DX戦略



ステークホルダー	DX戦略	具体的なアクション
得意先	取扱商品の拡充	仕入先の増加 市場リサーチツールを活用した商品トレンドの把握 新規PBの開発
	商品情報の充実	商品データベースの構築し商品仕様などの情報を充実化 物流計測機を活用した商品の物流サイズ計測
	入出荷キャパシティの強化	新物流拠点の立ち上げ 自動倉庫設備の導入 倉庫管理システムのリプレイスによる物流業務の最適化
	需要予測精度の向上	販売管理システムのリプレイスによる販売データの蓄積と活用 需要予測システムの内製
仕入先	発注データの連携	仕入先用Web-EDIを構築し、発注から納品、支払に至るまでの情報のやり取りを一元化
	在庫状況・出荷実績の共有	上記Web-EDI上にて各仕入先が自社商品の在庫状況・出荷実績のサマリーを閲覧できるページを公開
社員	グループウェア活用	情報の横展開・スタッフの相互理解 ワークフローのペーパーレス化
	エンゲージメントサーベイ実施	エンゲージメントサーベイトールを活用し月に一度の観測と、それに基づく1on1の実施 匿名形式でヒアリングした社員の声をもとに職場環境を改善
	バックオフィス業務の自動化	ノーコードRPA・OCRを導入・普及し、各担当者が自分の業務を自動化
	ITスキルの向上	入社年次や職位・所属部署に応じた研修を実施し、全社のITスキル底上げとDX推進チームの専門性向上を図る

DX戦略として上記を策定しました。

それぞれの施策を通じ、各ステークホルダーがその価値を実感できることを目指します。

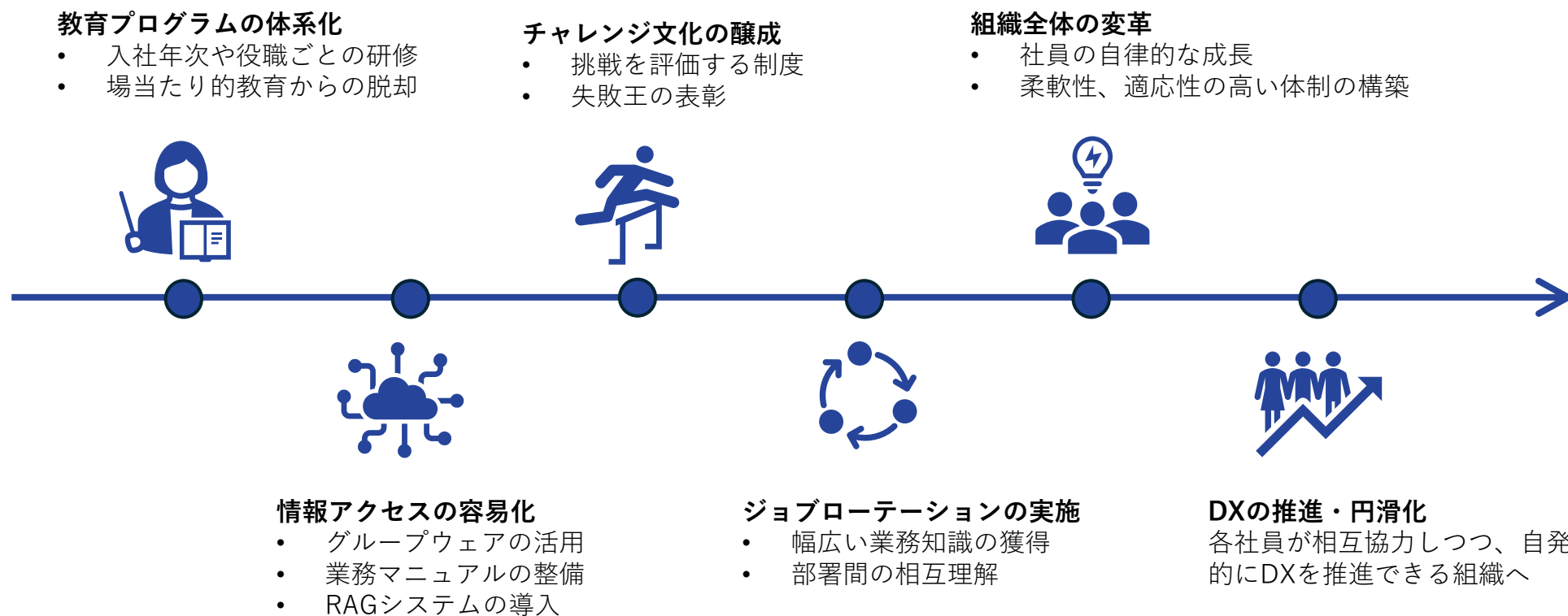


DX戦略を全社的に進めるため、社長直轄プロジェクトチームとしてDX推進チームを設立します。

DX推進チームにはシステム課を中心として、各DX戦略ごとに関連する部門が参画し、全社横断的な組織としてDX戦略全般の企画・推進をしてまいります。

DX推進のため、教育プログラムの体系化・情報アクセスの容易化・チャレンジ文化の醸成・ジョブローテーションの実施を通じて、社員の自律的な成長を促し、柔軟性・適応性の高い組織へ変革します。

上記施策により、各社員が相互協力しつつ自発的にDXを推進できる組織を目指します。



○IT基盤の最適化

変化の激しい事業環境に柔軟に対応し、事業成長を支えるIT基盤を実現するため、レガシーシステムと化してしまった現在の基幹システム・倉庫管理システムのリプレースを以下の方針に基づいて行うことで会社全体のDXを推進します。

- **分散型アーキテクチャの採用**

必要な業務機能ごとに最適なシステムを選定・導入し、各システムをAPIなどで連携することで全体最適を図ります。

- **クラウドへの移行**

社内サーバーを順次クラウド環境へ移行し、スケーラビリティの確保・可用性の向上を図ります。

- **システム評価制度の策定**

システム評価制度を策定し、場当たりのシステム導入・改修をなくします。また、必要に応じてシステムの廃棄・リプレースを行います。

○サイバーセキュリティ対策

- 下記URLの情報セキュリティ基本方針に基づき対策を実施します。

<https://sakai-fukui.co.jp/news/1199/>

07. 成果指標・KPI



ステークホルダー	DX戦略	成果指標・KPI	達成時期
得意先	取扱商品の拡充	取扱商品数 + 20万件（2024年比）	2030年
	商品情報の充実	商品データベースを新たに構築し、既存商品の情報を登録	2027年
	入出荷キャパシティの強化	1日の最大入出荷件数 + 50%（2024年比）	2027年
	需要予測精度の向上	受注当日中の出荷率 + 20%（2024年比）	2030年
仕入先	発注データの連携	全発注の80%をWeb-EDIに移行	2025年
	在庫状況・出荷実績の共有	Web-EDI上にて各仕入先が自社商品の在庫状況・出荷実績のサマリーを閲覧できるページを公開	2026年
社員	グループウェア活用	ワークフローの完全電子化 グループウェア上で部署横断プロジェクトを管理する体制の構築	2026年
	エンゲージメントサーベイ実施	サーベイのスコア + 5pt（2024年比 100pt満点）	2030年
	バックオフィス業務の自動化	1作業あたりにかかる時間を平均▲20%（2024年比）	2027年
	ITスキルの向上	新入社員・入社3年目・管理職・DX推進チームそれぞれを対象にしたIT研修プログラムの策定	2026年

DX戦略の達成状況を図る指標として上記を定めます。

それぞれの達成状況は年2回（6月、12月）に計測し、必要に応じてDX推進チームにて成果指標・KPIの再設定を行います。

当社は「共に喜ぶ」を社是とし得意先・仕入先・社員をはじめとする全てのステークホルダーと喜びを分かち合い、持続可能な価値を共創していくことを経営の根幹としてまいりました。この理念をより高い次元で実現していくためDX戦略をまとめました。

当社を取り巻く環境は、顧客ニーズの多様化・サプライチェーンの複雑化・働き方の変容など、これまでにないスピードで変化しています。この変化に柔軟かつ前向きに対応し、さらなる信頼を得て選ばれる企業となるためにはDXの推進が必要不可欠です。

本資料に示すDX戦略の目的は単なる業務効率化やIT導入ではなく、ステークホルダーとの関係性を深化させ共に成長することにあります。

その戦略を遂行する上で最大の原動力となるのは社員一人ひとりの力です。新たなシステムの導入・定着・改善はすべて社員の力によって進められるものです。当社は、社員の力を最大化することでDXを推進します。そして同時にDXを推進することが、社員一人ひとりの更なる力を引き出すと考えています。

「共に喜ぶ」未来を実現するために、私たちはDXを通じてステークホルダーの皆さまとこれからの価値を共に創ってまいります。

